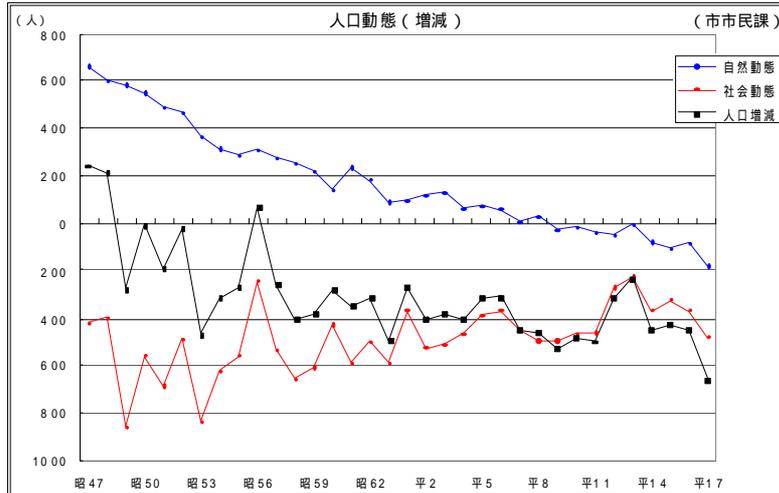


參考資料

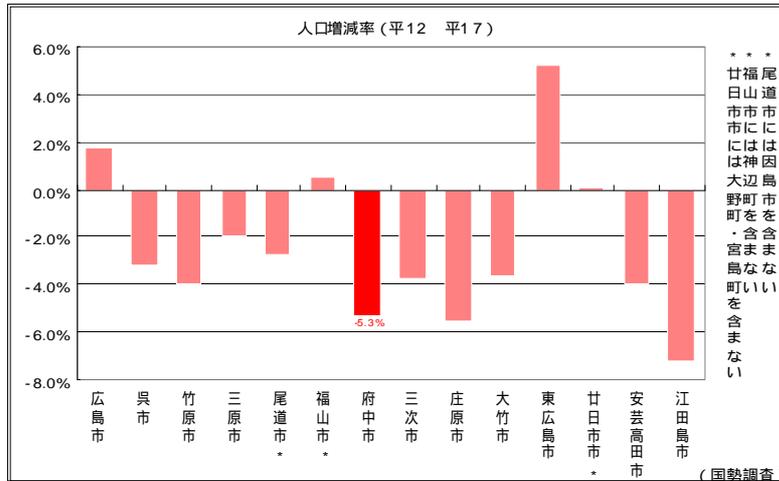
< 参考 1 > 府中市の人口や市街地に関する現況資料

人口の動き

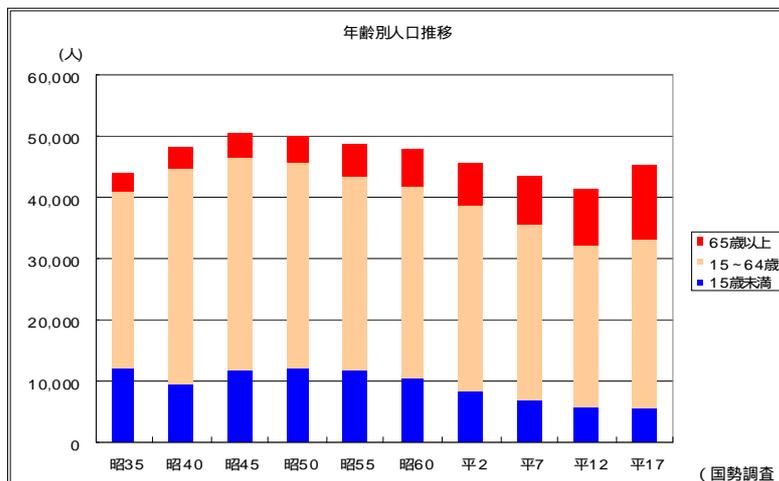
自然動態と社会動態を合わせた人口動態は、昭和40年代から減少が続いているが、平成8年より自然動態も減少に転じており、少子高齢化の影響が強く始めていることが分かる。



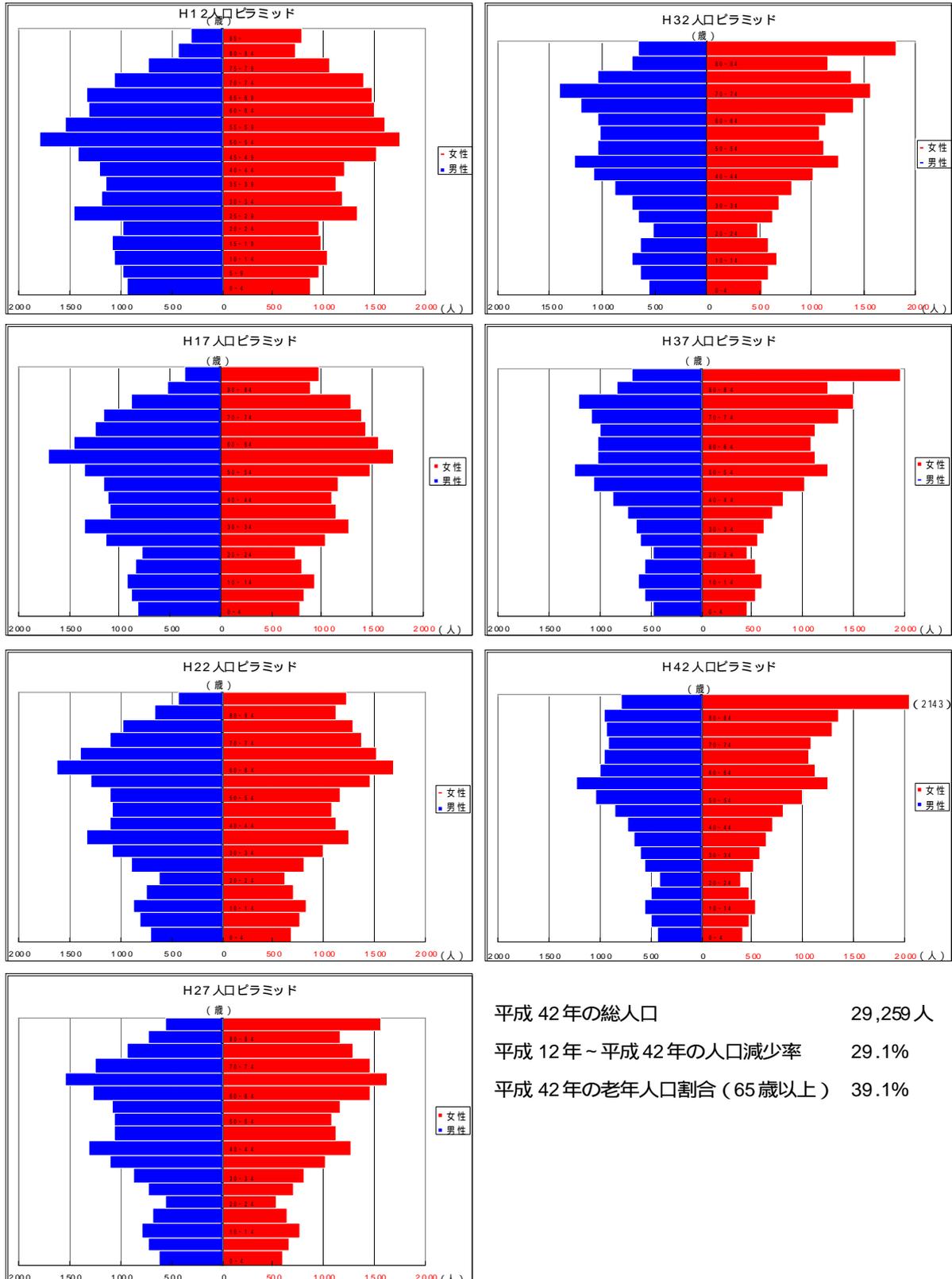
府中の人口動態を人口増減率で見ると、広島県内の各市の中でも江田島市、庄原市に続き3番目に減少が顕著であることが分かる。



年齢別の人口推移を見ると、15歳未満人口の減少、65歳以上人口の増加という少子高齢化の傾向が分かる。平成16年の上下町との合併においても、人口は増加したものの若年層の増減に大きな影響は見られない。

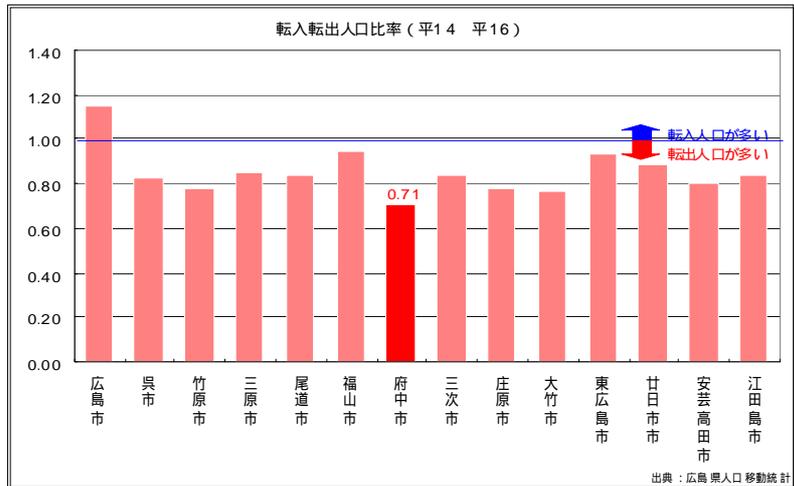


府中市男女5歳階級別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所；H15,12月推計 上下町は含まない）によれば、今後も著しい少子高齢化とともに人口の減少は進行し、平成42年には府中市の人口は3万人を下回り高齢化率はおよそ40%に達すると推定されている。

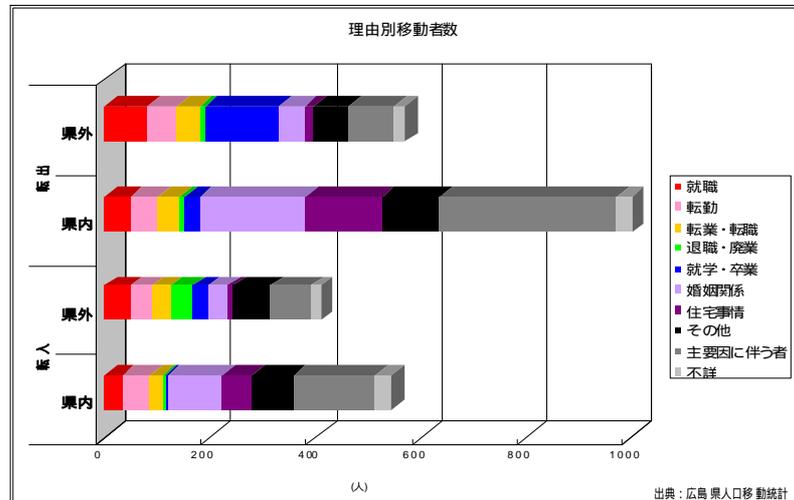


平成42年の総人口 29,259人
 平成12年～平成42年の人口減少率 29.1%
 平成42年の老年人口割合（65歳以上） 39.1%

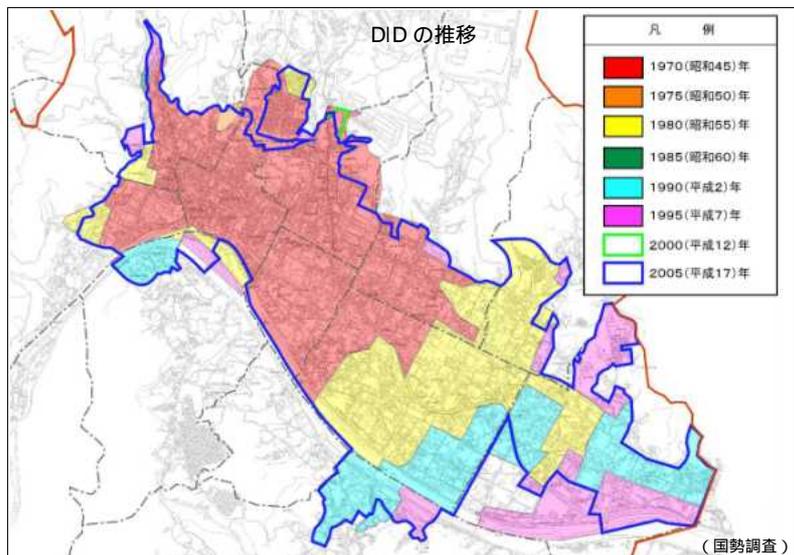
人口の社会動態（県外、県内他市への転出・転入）を見ると、3年間の転入人口と転出人口の比率が府中市は県内各市の中で最も低く、転入人口に対して転出人口が多い。



その転出の理由を見ると、県外への転出は就学や就職のためが多いが、県内の転出は婚姻関係によるものに次いで住宅事情が多い。



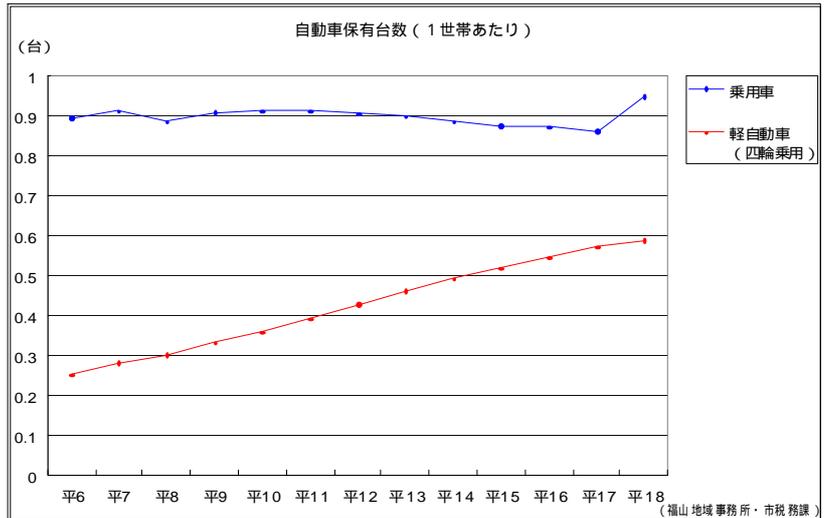
一方、市内における人口の動きを見ると、昭和40年代より人口減少が続いているにも拘らず、市街地の拡大は続いている。特に府中駅を中心にして市街地が、東方平野部の高木町、中須町に急速に拡大し、DID人口密度が30年間で半減した。



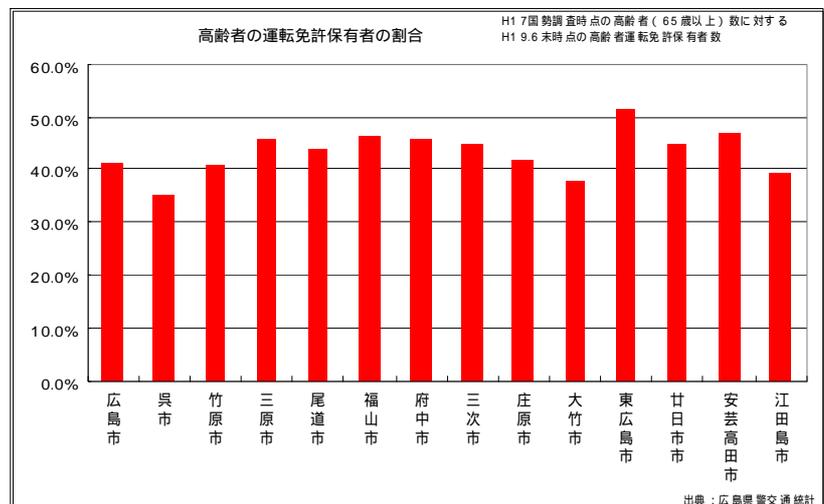
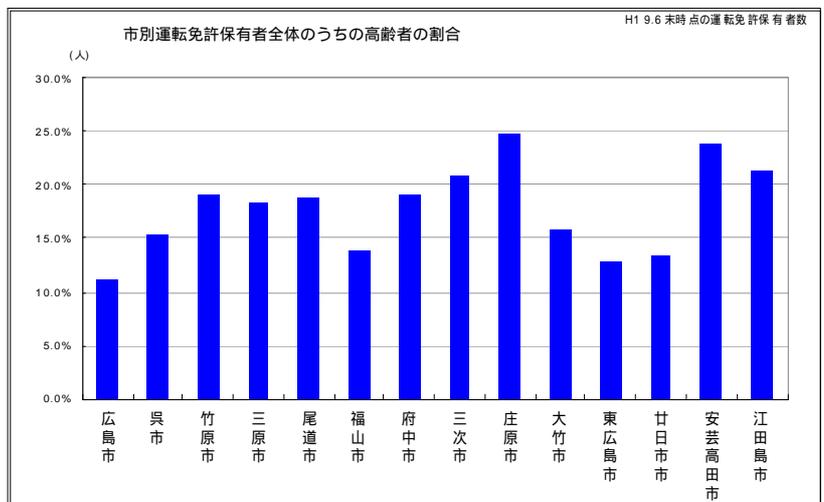
	1970 (昭45)	1975 (昭50)	1980 (昭55)	1985 (昭60)	1990 (平2)	1995 (平7)	2000 (平12)	2005 (平17)
DID人口(人)	23,531	23,635	24,398	22,884	24,474	25,230	23,378	21,984
DID面積(km ²)	3.2	4.0	4.9	4.8	6.0	7.0	6.5	6.5
人口密度(人/km ²)	7,353	5,909	4,979	4,768	4,079	3,604	3,602	3,408

DID(人口集中地区) : 国勢調査の調査区を単位として、原則 4000 人/k m²以上の調査区が隣接して合計 5000 人以上となる区域

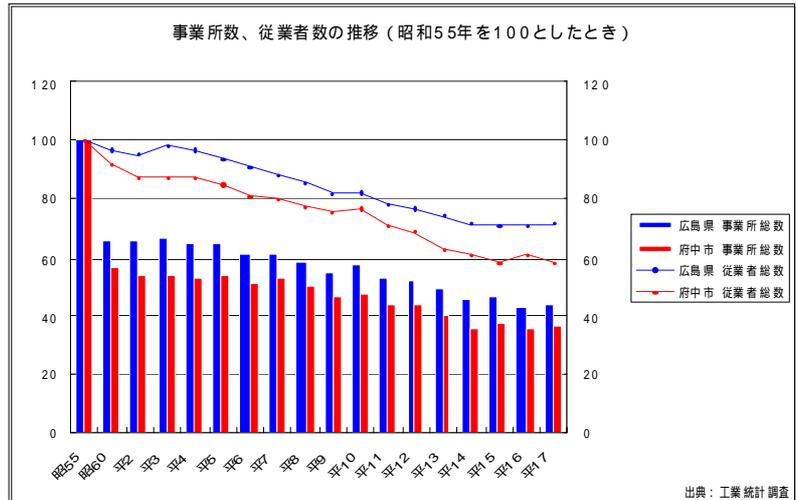
市内における自動車保有台数を見ると、普通乗用車には大きな変化はないが、軽自動車の保有台数が増え続けている。これは市民の移動手段として、特に日常生活の短距離の移動に車が利用される傾向が強くなっていることが考えられる。府中市における1世帯あたり軽自動車保有台数は、全国で約60番目の高い水準である。



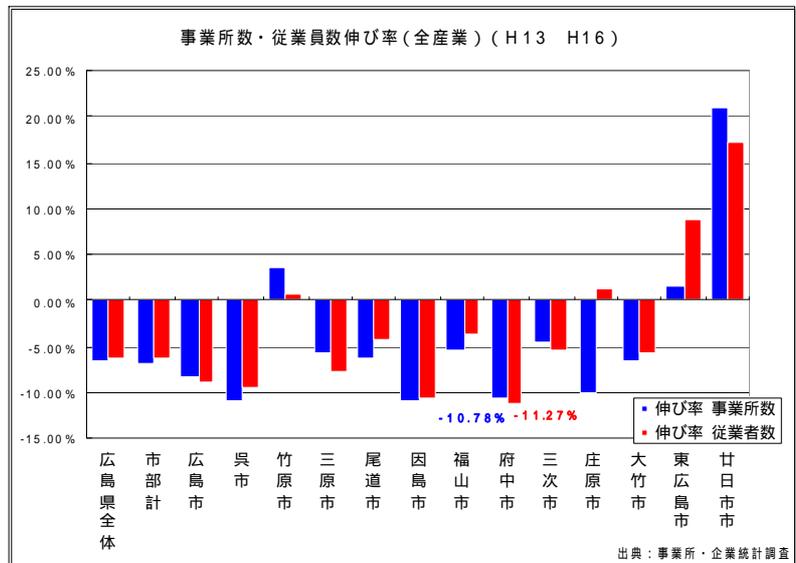
また、府中市の全運転免許保有者のうち、19.2%が65歳以上の高齢者であり、府中市の全65歳以上人口のうち、約45%の高齢者が運転免許を保有している。今後高齢化が進み、車の運転できない人口が増加することが予測される。



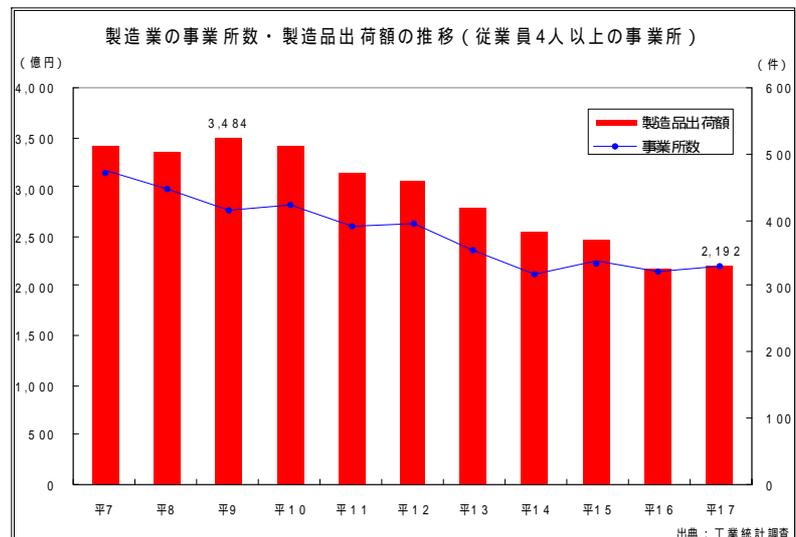
全産業の事業所数と従業者数の推移を見ると、減少傾向が続いており、広島県全体の水準を下回っている。



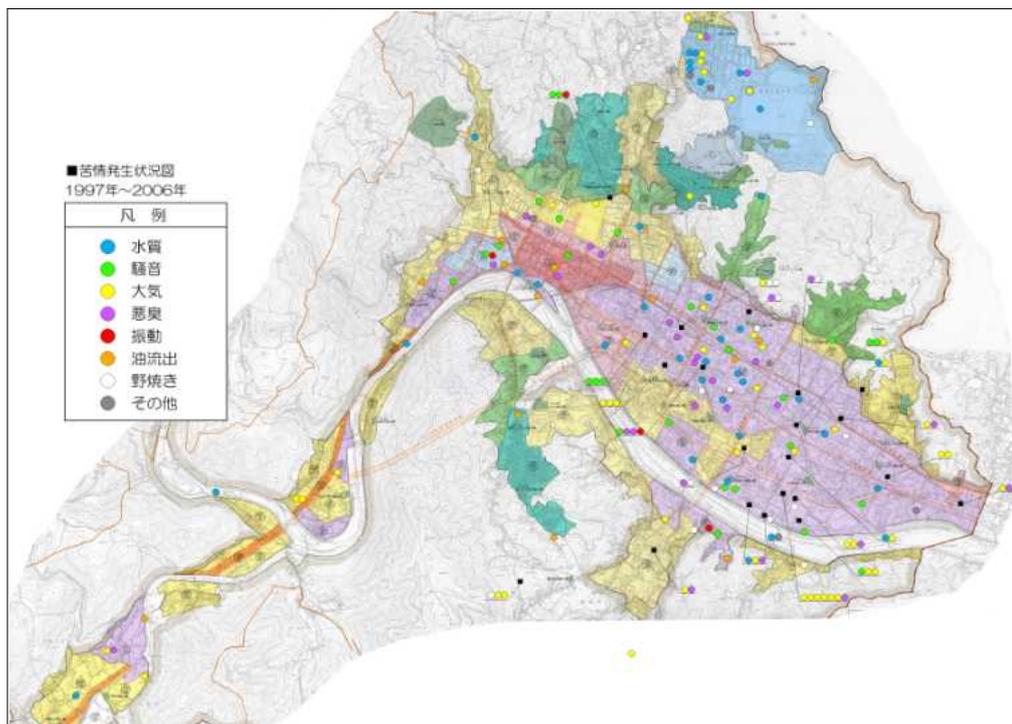
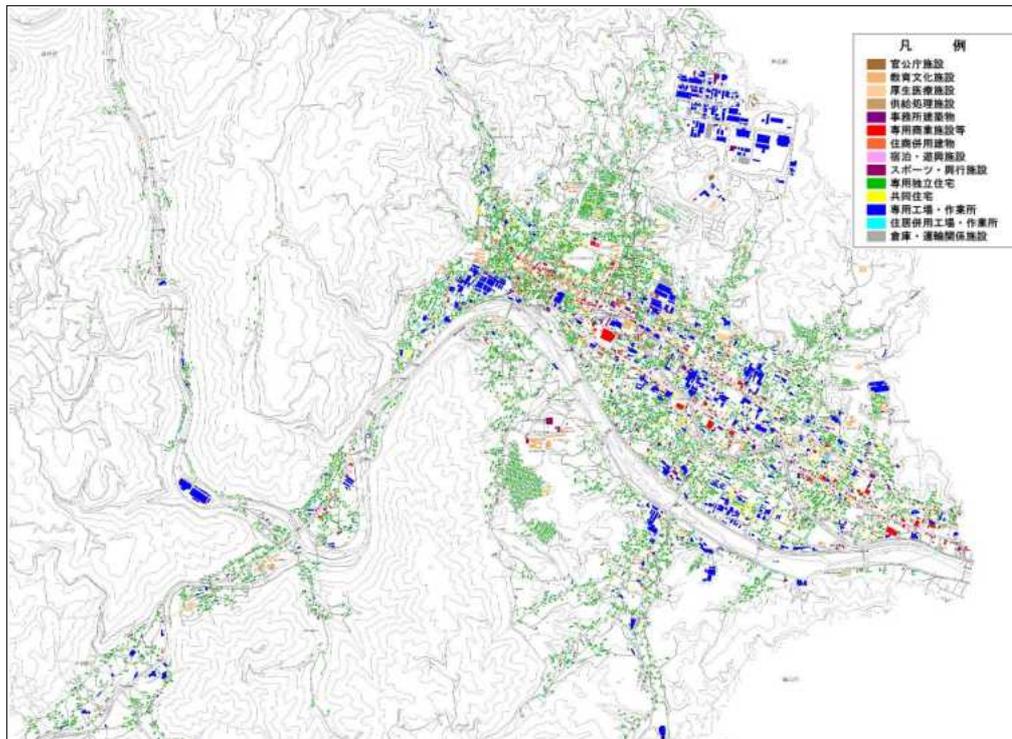
府中市の事業所数、従業員数の伸び率は、県内で最も悪い水準に位置するとともに、これは全国でも約30番目に悪い水準である。



特に製造業の事業所数、製造品出荷額の推移を見ると、減少傾向が続いている。製造品出荷額は平成17年にはピーク時（平成9年）の約6割まで落ち込んだ。

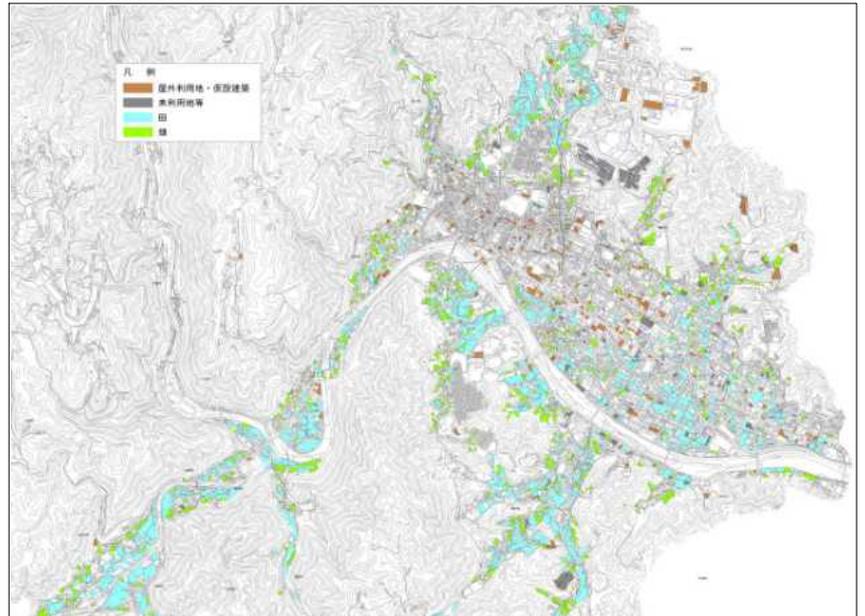


準工業地域の広い範囲において、住宅と工場が混在しており、製造業の工場周辺で大気汚染や悪臭、騒音、水質など、操業に伴うものと思われる公害苦情が発生している。

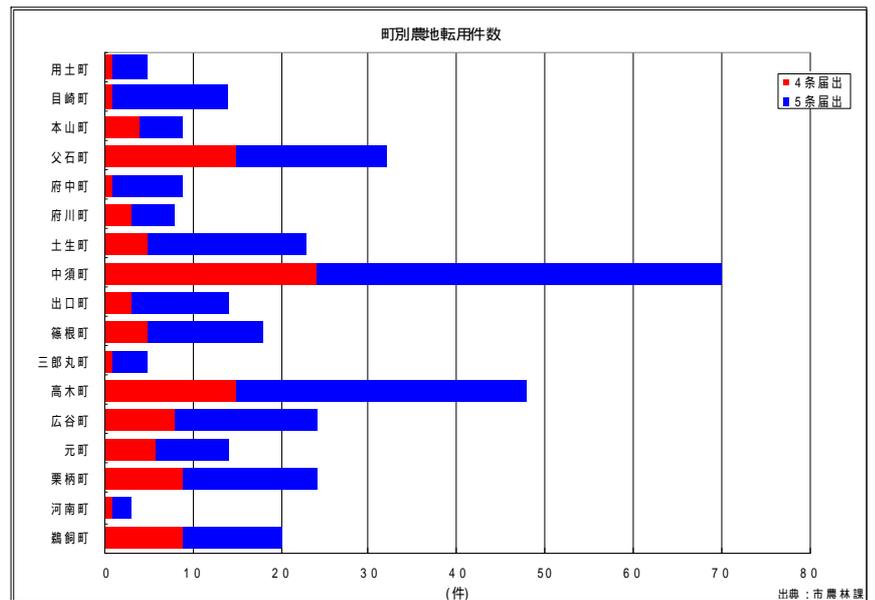


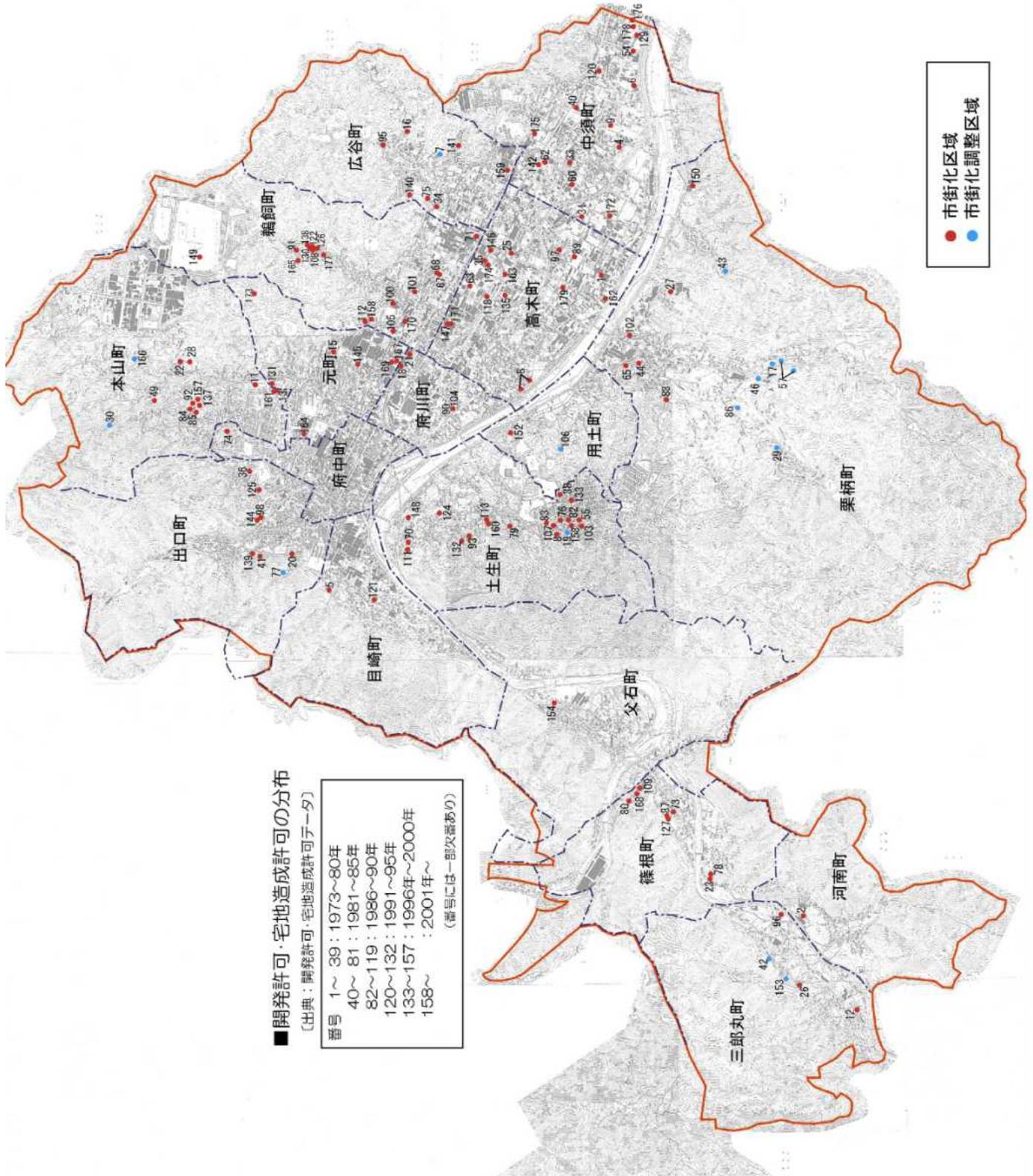
農地の状況

市街化縁辺部には谷間にまとまった農地が広がっている。また、市街地の中にも多くの農地が散在している様子が見られるが、この多くが耕作放棄地あるいは空閑地になっている。



農地転用は高木町、中須町、父石町等を中心に多く行われており、高木町、中須町周辺では権利の移転を伴う転用（5条）件数の方が多い。これは土地を事業者に売却して宅地開発する場合等が多く、開発許可・宅地造成許可の分布（次頁）を見ても、高木町、中須町周辺で多いことが分かる。

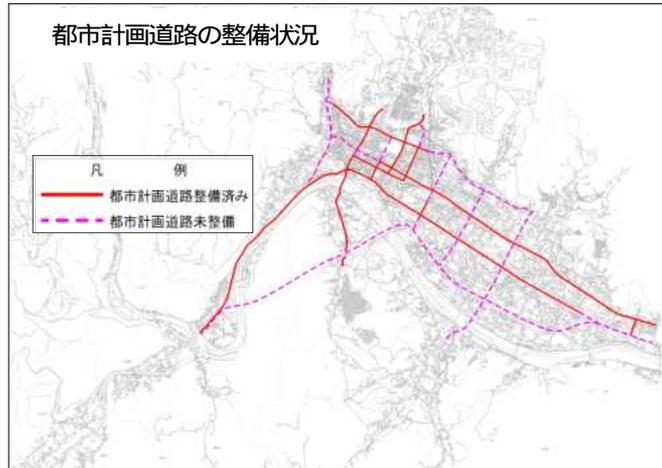




都市基盤整備の状況

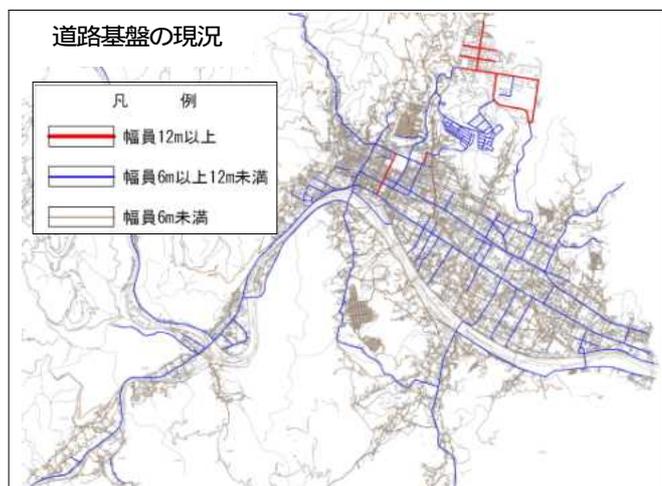
都市計画道路の現況

都市計画道路は、全体計画の約 50% 弱の整備に止まっている。このうち国道 486 号など市街地東西方向の幹線道路の整備が進んできているが、南北方向の整備がほとんど整備されていない。(現在、南北道路については事業推進中)



その他の道路の状況

市街地の多くが 12m 未満の道路で構成されており、十分なネットワークが形成されていない。特に高木・中須町周辺は、基盤が不十分なまま急速な市街化が進んだことから、幅員が狭くネットワークされていない道路が多く、自動車のみならず歩行者・自転車も安全に移動できない地区も多く存在している。



下水道整備の現況

芦田川以北の下水道幹線の整備はほぼ完了しており、浸水被害のあった高木・中須町周辺においてはポンプ場の整備が進められている。しかしながら、中心市街地以西(目崎・父石・三郎丸等)及び芦田川以南の地区(土生・用土・栗柄町等)では整備の目処が立っておらず、現在でもバキュームカーの巡回や合併浄化槽で対応している。

